

【小学生の部】作文部門 最優秀賞

「のど元過ぎれば」を打ち破れ」

練馬区立高松小学校 5年 ^{いわぶち}岩渕 ^{ななみ}七海

道徳の教科書に載っている地球の写真は、真っ暗な宇宙にぼつんと浮かんでいます。確かに青く輝く姿はまるで宝石のようで、とても美しいのですが、私には不安定で、しかも、一人ぼっちで必死に戦っているイメージがしてなりません。どうしてでしょうか。

私は、学校の課題でSDGsについて学びました。17の目標をクラスの皆で分担して調べ、その結果をスライドで投影しながら発表し合いました。その結果、世界にはたくさんの方が問題が迫っていること、中でも環境問題が危機的な状況であることなどを学びました。

もうのんびりなんかしてはいられません。その全ての原因が私たち人間の手によるものだと分かった今、じっとなどしてはいられないからです。責任を果たすべき時が来ています。

では、何ができるのでしょうか。

自分なりに頑張って考えてみました。

- ・使い捨てのプラスチックを使わない。
- ・海でも山でも、ゴミを勝手に捨てない。
- ・食器洗い洗ざいを使い過ぎない。
- ・油を直接下水に捨てない。
- ・お出かけは公共交通機関を使う。・・・

確かに自分にできることは、こんな小さなことしかありません。「ちりも積もれば」ということわざもありますが、それにしても気が遠くなるような取り組みです。何かが根本的に違うような気がしてなりません。

地球温暖化を始め、環境問題を最も悪化させている原因は、CO2の排出量が年々増大していることだそうです。日本の場合、その多くが化石燃料を燃やして電気を作っていることにあります。ですから、早急に、化石燃料に頼らない発電システムを作っていかなければいけないと思います。

日本は、2011年、東日本大震災で原子力発電所に大きな被害を受けました。その時、電気の大切さを学び、無駄遣いしない社会を作ろう、再生可能エネルギーをもっと活用しようと、危機感をもったはずですが。東京オリンピックも復興のために、そして、省エネ・低予算でできるからと招致したはずですが。それなのに、今ではあの教訓はどこにも生かされていません。「のど元過ぎれば」です。

どこかがおかしいと思います。もっと皆が地球の戦う姿に対して、真剣に向き合う時ではないでしょうか。もっと自分たちの未来について考える時ではないでしょうか。